

令和 6 年度第 4 回 柏市教育政策審議会 会議録

1 開催日時

令和 6 年 1 1 月 8 日（金）

午前 1 0 時から午後 1 2 時まで

2 開催場所

柏市役所沼南庁舎 5 階 大会議室

3 出席者

(1) 委員

天笠会長，寺本副会長，伊藤委員，藤崎委員，遠藤委員，鈴木委員，青木委員，入道委員，神田委員，坂本委員，古橋委員，阿部委員（計 1 2 名）

(2) 事務局

田牧教育長，原田教育総務部長，松澤教育総務部次長兼教育政策課長，中村教育総務部次長兼学校給食課長，籠教育総務課長，田村教育政策課副参事，柳澤教育政策課副主幹，布施教育政策課主査，平川教育政策課主事，加藤教育政策課教育専門アドバイザー，古谷教育施設課長，佐藤学校給食センター所長，宮本生涯学習部長，竹内生涯学習課主幹，福島学校教育部長，依田学校教育部上席技監，原学校教育部次長兼学校教育課長，渡辺学校財務室室長，福田教職員課長，平野指導課長，石井児童生徒課長，金岡教育研究所所長，幕内市立柏高等学校事務長（計 2 3 名）

4 教育長あいさつ

5 前回審議会の振り返り

会長進行のもと，資料 3 に基づき，前回審議会の会議録について確認し，全会一致で承認された。

6 本日のスケジュールについて

資料 4 に基づき、本日の審議会の位置づけ及び議題を確認した。

7 議題

基本方針答申第 1 案について

資料に基づき事務局より説明した。

これまでの審議内容を踏まえ、『本編』『資料編』『地域カルテ』の 3 部構成で作成された答申案を提示した。

『本編』については、4 章立てで作成しており、第 1 章では、どのような方針であるのか、目的や位置づけ、期間といった『基本方針の概要』を記載し、第 2 章では、現代の社会情勢や上位計画である文部科学省作成の『第 4 期教育振興基本計画の概要』、柏市が目指す子ども像並びに学校教育について、トレンドや柏市が目指す姿をお示ししている。

また、第 3 章では目指す子ども像や学校教育を実現するためにどのように対応していくのか、具体的な取組を掲載し、最後の第 4 章で、本基本方針をどのように広く市民に発信していくのか、周知方法を明記した。

なお、『資料編』は、『本編』の補足資料及び根拠資料として、これまで審議会で活用してきたデータを掲載し、『地域カルテ』は、各中学校区の特性等を取りまとめたものであり、学校の概要や周辺環境等、学校情報を入手できるものとなっている。

《以下、委員からの意見及びそれに対する事務局からの回答》
基本方針答申第 1 案について【資料 5】

(1) 第 1 章、第 2 章 1 及び 2 について

(天笠会長)

資料としてボリュームがあるため、章を区切りながら進めていく形式にします。第 1 章について意見をお願いします。

(天笠会長)

「3. 方針期間」について、2034 年までの 10 年間と設定され、以後は 10 年を目安に見直しを実施することとなっています。この目まぐるしく変わる変化の時代に 10 年が妥当な期間なのでしょうか。期間については、3 年になるのか、5 年になるのか、8 年にな

るのかは、事務局で検討していただくにしても、方針期間について実効性があるものなのか、検討の余地があるのではないかと思います。

（鈴木委員）

会長から方針期間を10年とするのはどうかとの話がありましたが、第2章2項の文部科学省の考え方では、教育振興基本計画の検討期間を5年としているため、そちらの期間に合わせてもよいと思います。

（天笠会長）

人口減少、産業構造の変化については、我が国の全体的な姿が記載されておりますが、柏市の状況については必要ないでしょうか。人口減少については、他ページで記載がありますが、柏市の状況について重複して記載しても不自然ではないと思います。全体的な人口減少は記載されているとおりですけれども、この文脈の中で柏市がどのような位置づけになっているのかということを記しておくことが必要なのではないかと思います。

というのも、柏市は人口が減るにしても、それほどではないのではないかという見方もできなくはないと思うからです。人口減少地域の減り方と柏市の人口の減り方は、柏市ならではの地域の特性があるので異なってくると思います。

また、産業構造の変化についても柏市における産業の有り様があるわけですので、人の出入りによってどういう姿、形になっていくのかというところも記していくということによって、柏市の次の世代をこういう方向で育てたい、というようなことが文脈として示せるのではないかと思います。

だからこそ、柏市の5年、10年後の動向等を第1章に示しても良いと考えます。

（古橋委員）

方針期間については、文部科学省の教育振興基本計画が5年、人口推計等で柏市の示すものが30年後と、どこの時点を見て策定していくのかをまず決めた方が良くないかと思います。

50年ごとのスパンで考えた時に、まず最初の10年はどうするのか、また5年経過したらどうなるのか、計画を進める中で、人口減少や産業構造なども、その期間で色々と変わってくるのではない

と思いました。

（天笠会長）

御指摘の通り，３年先，５年先というのは，かなり具体的な先の見通しを含めた話になってくるかもしれません。１０年ぐらいになってくると，我々が想定していないような事態の変化がありえるし，さらに３０年先という世代が１つ変わっていく，その時に大きな変化もあるかと思います。その辺りについて，少し先の時代を見通すことで，答申が見やすくなる，又は分かりやすくなると思いました。

（２）第２章３について

（伊藤委員）

柏市が目指す子ども像の説明について，「自分を大切にし，自己肯定感を高めてほしいという願いを込めました」というところが，これまでずっと審議してきた，自分を大事にする，そして自己肯定感を高めていく，さらに地域とのかかわりを通じて成長していくということが盛り込まれていて，この柏を背負っていく子どもたちに伝えるものとしてとても良いと思いました。

（藤崎委員）

前回の会議で天笠会長から学齢期だけでなく，乳幼児期から高校，就労につながまでの長いスパンで伴走していけるような施策が必要じゃないか，との意見があったかと思います。この点について，例えば柏市の場合は，令和８年から「柏市こども・若者の相談センター」を独自で立ち上げるということで，そうした内容が入ってもいいのではないかと思います。

（遠藤委員）

前提として，小学校，中学校あるいは高等学校も含めた子が対象でしょうか。あるいは０歳から１８歳まで対象にしているのでしょうか。目指す子ども像というのはどの辺りのところでしょうか。

（神田委員）

今，子どもが幼稚園と小学生です。これを見ていくと，まずこの目指す子ども像の対象は小学生の子どもかなという印象は受けますが，下の子どもが成長していくと，柏市の目指す子ども像の中に入っていく印象を受けるので，これで大丈夫かなと思います。

また、天笠会長が指摘した、人口減少、産業構造のところですが、やはり柏市のことが具体的に書いてあった方がいいと思います。小学生の子どもが1年生の時は普通に学校生活を過ごしていましたが、2年生の年にはコロナで学校生活が一変して周りの環境も変わり、友達も学校に行きづらくなった子がいました。このように予測できない事態が起きた時に、もう一度見直すことがあってもいいと感じます。

（坂本委員）

私の子どもも小学生で、神田委員の言うとおりに、未就学児を持つ親は、目指す子ども像について把握していれば、それで十分だと思いました。高校生、就労前のかたたちにも、この文言というのは伝わると思うので問題ないと思います。

（天笠会長）

まだ小学生に入学前の子育て中のかたにも、共通理解が大切だと思います。柏市で生まれ育つ子どもたちは、将来に向けての意義付けになると思います。

（寺本副会長）

議論の中心は小学校、中学校、高等学校でしたので、この点はやはり小中高の話で進めた方がいいと思います。

ただ、柏市の子ども政策の全体像がわかるようなもの、2ページの図表の次に、例えば、子ども子育て会議で議論している計画等で示す目指す子ども像等を記載すれば、0歳からのつながりがみえるのではないかと思います。

（天笠会長）

7ページのところに、目指す学校教育があります。1つ目の「学びをつなぐ」では、小中一貫といった、小中のつながり、その部分が焦点化されていますが、「つながり」は、ここだけが焦点化されるのではなくて、それこそ、0歳から18歳までの「つながり」も1つ国の政策として動いているところがあります。例えば、架け橋プラン等々もあって、幼児教育の考え方が、小学校の低学年の中で融合していくなどの考え方があります。また、義務教育終了後、高等学校との接続や社会へどう出ていくのか等は、小中高を通じての学校キャリア教育のあり方になると思います。

(3) 第3章について「1. 誰一人取り残さない学校教育の推進」

(天笠会長)

「(1) 学びをつなぐ」, 「(2) 子ども主体の学び」について意見がありますか。

(入道委員)

グローバルということで、英語が色々話題になっていますが、日本語や日本について等を子どもたちに伝えてあげてほしいと思います。日本のいいところを学んでいけるような体制は作っていただきたいと思います。

(阿部委員)

幼児教育と小学校教育とのつながり、義務教育と高等学校のつながりに取り組んでいくことは大切であると思いました。

(伊藤委員)

小学校1, 2年生、特に1年生では、幼稚園の時とのギャップを感じ、驚きをもっている子どもがいたりと思いながら授業の様子を見ています。幼稚園では自由に様々な遊びをしています。その遊びの中にも学ばせる意図や目的があって、その中で子どもたちが自主性やいろいろな気づき、友達とのコミュニケーション等を培ってきたと思いますが、小学校1年生になってすぐ、机に向かい先生の話聞く、教科書を開いて字を書く等のように、自由なスタイルでなくなることにギャップがあると思いました。幼稚園や幼児教育での遊びを通して学ぶという手法も小学校でも上手に取り入れながら、滑らかな接続ができるといいのかなと思いました。

(藤崎委員)

小学校から中学校への接続について、今、学校で取り組んでいることは、新入生の保護者説明会のほか、子どもたちを招いて実際に授業や学校体験を行っています。また、特別支援学級の担任が小中で授業を行う等の取組も行っています。やはり小中の教員同士の行き来がすごく重要になってくると思っています。

(天笠会長)

19ページの市立高等学校の魅力化について、意見がありますでしょうか。

(遠藤委員)

19ページの記載は、今現在取り組んでいる内容で、チーム一丸となって推進しているところです。中高の接続の部分については、やはりギャップがあると思います。授業の出席数に関しても、高校では授業全体の3分の1を休んでしまうと単位が取得できなくなる場所もそれまでと違う点のため、説明が必要です。また、社会に出る最終ラインのため、社会に向けた教育の指導、それが中高の接続の部分での1番の違いと感じております。

(天笠会長)

個別最適な学びや特別支援教育について意見はありますか。

(藤崎委員)

「特別支援教育の推進」と「不登校児童生徒への支援」に関係すると思いますが、この2つの問題を取り上げる時に、やはり福祉や医療との連携というのは切っても切れないところだと思いますので、その辺りがもう少し取り入れられるといいかなと思います。また、柏市で児童相談所を設置するということがあるのであれば、この文言の中に入れていくべきじゃないかと思います。

(天笠会長)

安全・安心な居場所づくりということで、不登校児童生徒への支援、教育相談の充実、子どもの居場所について意見はありますか。

(入道委員)

地域との連携に関係しますが、特別支援学級に在籍する子どもたちは、比較的地域でお世話になる子が多いです。小さい時から地域の方々とながっているのです、特別支援学級を担当する先生は地域の方とお互いに交流していきたいとおっしゃっていました。不登校の子も同様に、地域との連携が大事だと思います。

(阿部委員)

学ぶ場所について、社会教育の施設も含めて子どもたちにどのようにつながりを持たせればいいのかということも、テーマとしてあるのではないかと思います。

(藤崎委員)

不登校の概念自体を見直す段階に来ていると思います。30日を超えると不登校といわれていますが、その考え方自体をもう改めな

くてはいけないのではないかと思います。それから、会長が指摘したように、学校以外にも学ぶ機会がたくさんありますので、そういったところをどのようにしていくのが1つ焦点かだと思います。

（天笠会長）

17ページ「(4) 家庭・地域とともに」について、意見があればお願いします。

（入道委員）

コミュニティ・スクールの活性化についてですが、先生の働き方改革に関連してくると思います。コミュニティ・スクールでやりたいことがあったとしても、学校側からすれば、学校の教育計画や授業時間が決まっているため、そこにコミュニティ・スクールの時間が入ることにより、先生方にも負担がかかることになります。そことの兼ね合いがあると思います。資料の後半には、先生方の働き方改革についてあるため、学校を中心に地域に広げていきたいと思います。ということは、先生方の働き方改革に逆行することになり、難しいかなと思っています。

（阿部委員）

私個人の理解としては、地域の資産を学校教育の中でどう生かすのか、学校教育カリキュラムで位置付けられるような方向性が出てくれば良いかなと思っています。

（天笠会長）

コミュニティ・スクールについては、学校運営協議会のメンバーがその学校の教育活動を承認するということから始まります。そのため、運営協議会委員は、学校の教育課程や部活動について、一定の知見をお持ちになっている方々によって構成されることになります。

しかしながら、委員から発言があったように現実には様々な問題があるため、もっと学校と地域がコミュニティ・スクールを介して寄り添い、教育活動の中身等を引き上げ、底上げしていく等も必要なことだと思います。このことは学びの連続性についても関連してくると思います。

（鈴木委員）

学校給食について、先生方が苦勞しているのを聞いていると、な

ぜ学校給食が公会計化にならないのか疑問に思っています。

また、安全・安心な居場所づくりとリンクしますが、いじめが原因で不登校が発生する時には、先生方の初動体制や保護者との連携も含めた研修等の体制作りが必要なのではないかと思います。

(4) 第3章について「2. 学びを支えるよりよい教育環境づくり」
(天笠会長)

22ページの現状や課題については、もう少し丁寧に記す必要があるのではないかと思います。例えば、人口が減少する推計である場合でも、どのくらい減少するのか、急激に減少するのか、比較的穏やかな減少なのか、は柏市という地域の特性ということと裏返しになってくると思います。方針期間と関連させると、今後10年で、柏市がどうあるかなどを示していくことが大切だと思います。

もう1つは、施設の問題です。様々な自治体の話を聞くと、対応する必要のある施設が多いことや予算との兼ね合いで、どうしても建物の改修等が後回しにされる事情があると聞いています。今回、学校施設の整備を計画立てているので、少なくともその通りに進めていくような文言を記載する必要があると思います。

また、安心・安全な学校施設について、学校は避難施設としても存在します。学校施設自体が老朽化していて、いざ大きな災害になった時に安心・安全と言えないところがありますので、自然災害等への対応のために施設を修繕等していくといった視点で整備を進めていくことも、1つの方向性としてあるのではないかと思います。具体的には、体育館の空調は喫緊の課題としてあると思いますので、そのようなことも文言の中に入れていいと思います。

(阿部委員)

1学年1クラスの問題について、私自身は複式学級で育ってきたため、小規模校に違和感がないのですが、クラス替えできないということが問題に挙げられています。この問題は、地域と学校の関わりの問題でもあるので、いずれ統廃合の話になってくるのだと思います。他自治体の公立学校では、小学校1年から3年までクラス替えをあえてしないところもありますので、もう少し幅のある表現ができないのかと思います。

基本的にこの答申は問題ないと思いますが、学校施設は外か

ら見ると、老朽化がみえ、やはりなんとかしてほしいと思います。また、1回建物を建てたら60年近く使うなかで、今後、どのように変わるかわからないため、何かが変わった時に対応できるような施設であってほしいと、自分自身の経験からもそう感じています。

（天笠会長）

学校の建物は、建ててから10年ぐらい経過したものでも、恐らくまだまだ新しいという印象が皆さんのご認識だと思いますが、10年経過したマンションはメンテナンスしながら施設を維持していきます。学校施設の場合は、1度建設したら、使えなくなるような状態まで使ってから新しくするのが当たり前です。長寿命化ということが言われ、なんとか学校を維持していくとすると、10年くらい経過したところで少し痛みが出たところをメンテナンスしていく、といったことを常態化するというのも、これからの施設のあり方として考えられると思います。この辺りは、国をあげて考えてもらいたいところでもあります。

（神田委員）

学校が避難所の役割もあると話がありましたが、先日、私の居住区内にある中学校で避難体験をしました。学校には避難用の物資が色々あるはずなのですが、地域の人も学校の先生もそこに何があるかを全然把握していないということがわかりました。今回の体験で災害時に避難できる中学校が近くにあること、様々なものが備蓄されていることを知り、安心した部分がありました。そのような部分も学校の魅力の1つであるということをどこかに明記するのがいいなと思いました。

また、給食の話がありましたが、私自身、通っていた小学校の給食がすごく美味しく、栄養士さんが柏市の食材を使っていることを説明してくれたことを今でもよく覚えています。給食は子どもの心にすごく残るものなので、充実させるよう考えてくれていることは素晴らしいことだと感じました。

（5）第4章について

（古橋委員）

目指す子ども像における「自他の対話を大切にしながら」というところは、子どもたち、児童生徒のことなので、これをすべての子

どもたちに届けてもらえたらなと思いました。

（天笠会長）

伝え方、共有の仕方の1つだと思いますが、コミュニティ・スクールでも話題にさせていただくとか、何らかの形で取り上げていただくのも1つではないかと思ひますし、もっと色々な手立て、アイデアがあるかと思ひます。

（6）資料5全体について

（青木委員）

子どもの居場所について、例えば、授業についていけないお子さんがどのクラスにもいると思ひますが、本来だったらもっとこうしてあげた方がその子にとってはいいのではないかということも、保護者から言ってもらわない限り先生としては踏み込めない状況があると聞きます。このような状況に対応するため、家庭事情にも踏み込めるようなソーシャルワーカーのように権限や知識をもった職員が情報も提案できるような設置が必要ではないかと思ひます。この役割を担当の先生に任せてしまうと負担が大きいため、専門の方を派遣してもらふ等の対応があれば、もっと変わるのかなと思ひています。

（阿部委員）

計画期間については、もう少し長く、例えば30年で考えたほうが良いと感じています。大学では7年に1回外部評価を受けてチェックされますが、その時の評価の1つに、中長期計画があるかないかということがあります。

また、市立柏高校について、市立柏高校ができた理由、あるいはアイデンティティみたいなものが、資料に出てきてほしいなと思ひています。

（天笠会長）

幼児教育から小学校、中学校、そして高等学校、この繋がりの中にあるのが市立柏高校だと、そんな学びの連続性を具体化、体現化する1つの姿として市立柏高校は存在していると思ひました。

（神田委員）

議論を重ねてよいものができたと思ひますが、これを知ってもらわないと意味がないと思ひます。冊子などにされると思ひますが、

私と同様にそういったものを読むのが苦手という方もいると思うため、いかに分かりやすく伝えるかというところがすごく重要になってくると思います。また、具体的な取組が様々示されていますが、それに対してどう取り組まれたかが目に見えてわかると、みんな納得できるし、安心できると思うので、結果を見せる機会があるとより良いかなと思いました。

(7) 資料編について

(天笠会長)

膨大な分量でありますので、今すぐここでということではないかもしれませんが。何かお気づきの点をご指摘いただければと思います。

(8) 全体を通しての意見

(神田委員)

いろいろな部分において、いろいろな方面から網羅されていて、まとめられていると思いました。私は保護者という立場から、こういうものが目に見えてわかると、すごく安心して子どもたちを学校に通わせることができるなと感じました。

(坂本委員)

資料はとても膨大な量ではありますが、色使いとかもとても見やすいものになっていると思いました。

(古橋委員)

基本方針の具体的取組において、給食センターの建替の実施に合わせて、「自校方式調理場における改修等の工事期間中に給食を提供できる」とのことでした。小学校の時に大規模改修があり、その間の対応が非常に大変だったことを覚えているので、工事期間中にも給食が提供できることはいいことだと思いました。

(入道委員)

これから先、30年先について、具体的に考えていることがわかると嬉しいと思います。また、子どもたちのことをすごく考えていて内容的には素晴らしいものだと思います。学校のことに关しては、色々と協力していき、地域を盛り上げていくつもりです。また、単学級、小規模の学校は、配置される先生方の人数や専門教科とかが決まってしまうと思いますが、先生方が色々苦勞されているので、

ゆとりがうまれるような先生方の配置ができればいいと思っています。

（青木委員）

方針期間を示す文言の最後に「計画期間の見直しについては、柔軟に対応することとする」と書いてあり、大事なことだと思います。都度会議を立ち上げるのか、現場の意見を聞いて対策することになるのかわかりませんが、柔軟に対応するなら安心できるなと思いました。

（鈴木委員）

素晴らしい資料だなと感じております。その中で1点、資料7（地域カルテ）にコミュニティ・スクールの設置状況の記載があるので、例えば大体何名ぐらいで、どのメンバーが構成されているのかなどがあれば参考になると思いました。

（遠藤委員）

今回の基本方針は、社会情勢や教育課題等を全て網羅した資料だと思います。教員のところを見ると、これからこれらが推進されれば教育環境が良くなっていくイメージができます。

1つ心配な点としては、小中一貫教育について、今これが必要だとか、こういうメリットがある、デメリットをこうやって解釈する、みんなで協力してくれというロジックがもう少し強調されると、教員の立場でない人たちに理解してもらえるのかなと感じました。

（藤崎委員）

これまでの審議がしっかり集約された資料になっていると感じています。毎年5万人ずつ不登校生徒が増えることは異常な状況だと思いますし、少なくとも柏市内ではそれが少しでも改善できればと思います。今1番必要なのは、どうしても学校に来なければいけないというようなところではなくて、こんなことができるよとか、こんな学びがあるなど、学校の柔らかさを強調できるように示すことができればよいなと思っています。

（伊藤委員）

基本方針本編については、これまでの審議が本当に集約されていて、とてもいい形になっていると思いました。校長の立場からすると、これをやはり先生方、保護者の方に、地域も含めて、きちんと伝えて、一緒に学校を応援していかなくてはいけないんだなという

ことをすごく強く感じました。特に教職員がこの指針に立ち返って、色々な教育課題について柔軟に対応していくことが大事だと思いました。

（寺本副会長）

とても網羅的で多面的な資料として、形になったと思います。また、いろいろなところが見える化されて、関係する方々と共有できる基盤がここにできたのかなと思います。柏市の話にとどめず、国際的な教育の目標や国の方針とも合致している方向性だと思いますので、柏市の教育、羅針盤として機能するものができたと思います。

（天笠会長）

本日の会議でお気づきになった点について、その旨をメール等々で、事務局に伝えていただくと、それを踏まえた上で、次の会議で、これを加筆修正したものの反映させていただきます。今日欠席の方におかれましても、何らかの形でご意見を聞いていただいて、この中に反映をお願いできればと思います。

8 傍聴

（1） 8 名

（2） 傍聴の状況

傍聴要領に反する行為は、見受けられなかった。

9 配付資料

（1） 次第 令和 6 年度第 4 回 柏市教育政策審議会

（2） 【資料 1】 柏市教育政策審議会委員名簿

（3） 【資料 2】 席次表

（4） 【資料 3】 令和 6 年度第 3 回 柏市教育政策審議会会議録（案）

（5） 【資料 4】 柏市教育政策審議会の進行スケジュール（予定）

（6） 【資料 5】 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針
（答申第 1 案）

（7） 【資料 6】 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針
資料編（答申第 1 案）

（8） 【資料 7】 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針
別冊 地域カルテ（答申第 1 案）